

上峰町文化財調査報告書第39集

上峰町内遺跡確認調査VI

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成25年度—

2015年3月

上峰町教育委員会

上峰町文化財調査報告書第39集

上峰町内遺跡確認調査VI

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成25年度—



2015年3月

上峰町教育委員会

序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言わされてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この20余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るための資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県教育委員会、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成27年3月

上峰町教育委員会

教育長 矢動丸 壽之

例　　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡確認調査のうち平成 25 年度に実施した町内遺跡確認調査の報告書である。
2. 本書は、平成 26 年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、原田大介が行った。
10. 本報告書に係る町内遺跡確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡　　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、広くは遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに平成をあらわす「H」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、各年度調査位置図・各年度実施確認調査一覧表・各年度の報文中の調査番号は一致する。

例) 平成 25 年度に 3 番目に実施した〇〇遺跡確認調査 H25-3 〇〇遺跡
3. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。
4. 確認調査等の結果を受けて実施した本調査については、確認調査報告の節の後に、遺跡名と調査区番号を付して報告する。

例) 〇〇遺跡本調査 〇〇遺跡〇区発掘調査
5. 本文・挿図中的方位については、全て座標北を基準としている。
6. 表中の数値に付した記号で、() は推定値を、※は部分値を表す。
7. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっているが、本書では、一部を除き、旧来の名称を使用している。

調査組織

平成 25 年度

調査主体	上峰町教育委員会	
調査事務局	総括 矢動丸壽之	上峰町教育委員会 教育長
事務主任	原田大介	〃 文化課長
経費執行	原田大介	〃 文化課長
調査組織	調査員 原田大介	〃 文化課長
調査指導	佐賀県教育委員会	

発掘作業参加者

平成 25 年度

江副 愛子・大庭 始・久保イサ子・鳴山美千代・杉谷 勇・杉谷 嘉泰・濱 富助・松永チサ子・
宮崎 正秋・牟田 康孝・森田 安治・矢動丸松美・山田富士夫
島 美保子

整理作業参加者

江崎 愛子・島 美保子（平成 26 年度 整理作業員）

目 次

序

例言・凡例

調査組織・作業参加者

I.	上峰町の位置と環境	1
1.	上峰町の位置	1
2.	歴史的環境	1
II.	調査の概要	6
1.	調査に至る経緯	6
2.	調査の方法	6
III.	平成 25 年度の調査	9
H25-1	周知外 下坊所地区	13
H25-2	坊所五本谷遺跡	14
H25-3	碇環濠集落跡	15
H25-4	一本谷遺跡(1)	16
H25-5	坊所二本谷遺跡	17
H25-6	周知外 井手口地区	18
H25-7	三上遺跡(1)	19
H25-8	四本谷遺跡	20
H25-9	一本谷遺跡(2)	21
H25-10	西前牟田遺跡(1)	22
H25-11	坊所一本谷遺跡	23
H25-12	周知外 上坊所地区	24
H25-13	杉寺遺跡	25
H25-14	船石遺跡	26
H25-15	三上遺跡(2)	27
H25-16	三上遺跡(3)	28
H25-17	周知外 切通地区	29
H25-18	西前牟田遺跡(2)	30
H25-19	周知外 上米多地区	31
H25-20	坊所城跡(1)	32
H25-21	周知外 江迎地区	33
H25-22	坊所城跡(2)	34
H25-23	三上遺跡(4)	35
H25-24	三上遺跡(5)	36
	坊所城跡 3 区発掘調査	38

挿図目次

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)	2
2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)	7
3 平成 25 年度 確認調査位置図 (1/50,000)	12
4 H25-1 周知外 下坊所地区 (1/5,000)	13
5 H25-2 坊所五本谷遺跡 (1/5,000)	14
6 H25-3 硯環濠集落跡 (1/5,000)	15
7 H25-4 一本谷遺跡(1) (1/5,000)	16
8 H25-5 坊所二本谷遺跡 (1/5,000)	17
9 H25-6 周知外 井手口地区 (1/5,000)	18
10 H25-7 三上遺跡(1) (1/5,000)	19
11 H25-8 四本谷遺跡 (1/5,000)	20
12 H25-9 一本谷遺跡(2) (1/5,000)	21
13 H25-10 西前牟田遺跡(1) (1/5,000)	22
14 H25-11 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)	23
15 H25-12 周知外 上坊所地区 (1/5,000)	24
16 H25-13 杉寺遺跡 (1/5,000)	25
17 H25-14 船石遺跡 (1/5,000)	26
18 H25-15 三上遺跡(2) (1/5,000)	27
19 H25-16 三上遺跡(3) (1/5,000)	28
20 H25-17 周知外 切通地区 (1/5,000)	29
21 H25-18 西前牟田遺跡(2) (1/5,000)	30
22 H25-19 周知外 上米多地区 (1/5,000)	31
23 H25-20 坊所城跡(1) (1/5,000)	32
24 H25-21 周知外 江迎地区 (1/5,000)	33
25 H25-22 坊所城跡(2) (1/5,000)	34
26 H25-23 三上遺跡(4) (1/5,000)	35
27 H25-24 三上遺跡(5) (1/5,000)	36
28 平成 25 年度 本調査位置図 (1/50,000)	37
29 坊所城跡 3 区 調査区位置図 (1/2,500)	38
30 坊所城跡 3 区 調査範囲位置図 (1/200)	39
31 坊所城跡 3 区 遺構配置図 (1/100)	40
32 坊所城跡 3 区 遺構実測図(1)	42
33 坊所城跡 3 区 遺構実測図(2)	43
34 坊所城跡 3 区 遺構実測図(3)	44
35 坊所城跡 3 区 遺構実測図(4)	44
36 坊所城跡 3 区 遺物実測図(1)	46
37 坊所城跡 3 区 遺物実測図(2)	47

表 目 次

Tab. 1 平成 25 年度 町内遺跡確認調査一覧表	10
2 坊所城跡 3 区 出土埋め甕・土壤等一覧表	41
報告書抄録	

図 版 目 次

PL. 1 H25-1 周知外 下坊所地区	13
2 H25-2 坊所五本谷遺跡	14
3 H25-3 碇環濠集落跡	15
4 H25-4 一本谷遺跡(1)	16
5 H25-5 坊所二本谷遺跡	17
6 H25-6 周知外 井手口地区	18
7 H25-7 三上遺跡(1)	19
8 H25-8 四本谷遺跡	20
9 H25-9 一本谷遺跡(2)	21
10 H25-10 西前牟田遺跡(1)	22
11 H25-11 坊所一本谷遺跡	23
12 H25-12 周知外 上坊所地区	24
13 H25-13 杉寺遺跡	25
14 H25-14 船石遺跡	26
15 H25-15 三上遺跡(2)	27
16 H25-16 三上遺跡(3)	28
17 H25-17 周知外 切通地区	29
18 H25-18 西前牟田遺跡(2)	30
19 H25-19 周知外 上米多地区	31
20 H25-20 坊所城跡(1)	32
21 H25-21 周知外 江迎地区	33
22 H25-22 坊所城跡(2)	34
23 H25-23 三上遺跡(4)	35
24 H25-24 三上遺跡(5)	36
25 坊所城跡 3 区 調査区遠景・遺構検出状況	48
26 坊所城跡 3 区 調査区全景・調査終了後	49
27 坊所城跡 3 区 遺構	50
28 坊所城跡 3 区 遺構・遺物	51
29 坊所城跡 3 区 遺物	52
30 坊所城跡 3 区 遺物	53

I. 上峰町の位置と環境

1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地域は郡境地区と呼称されている。

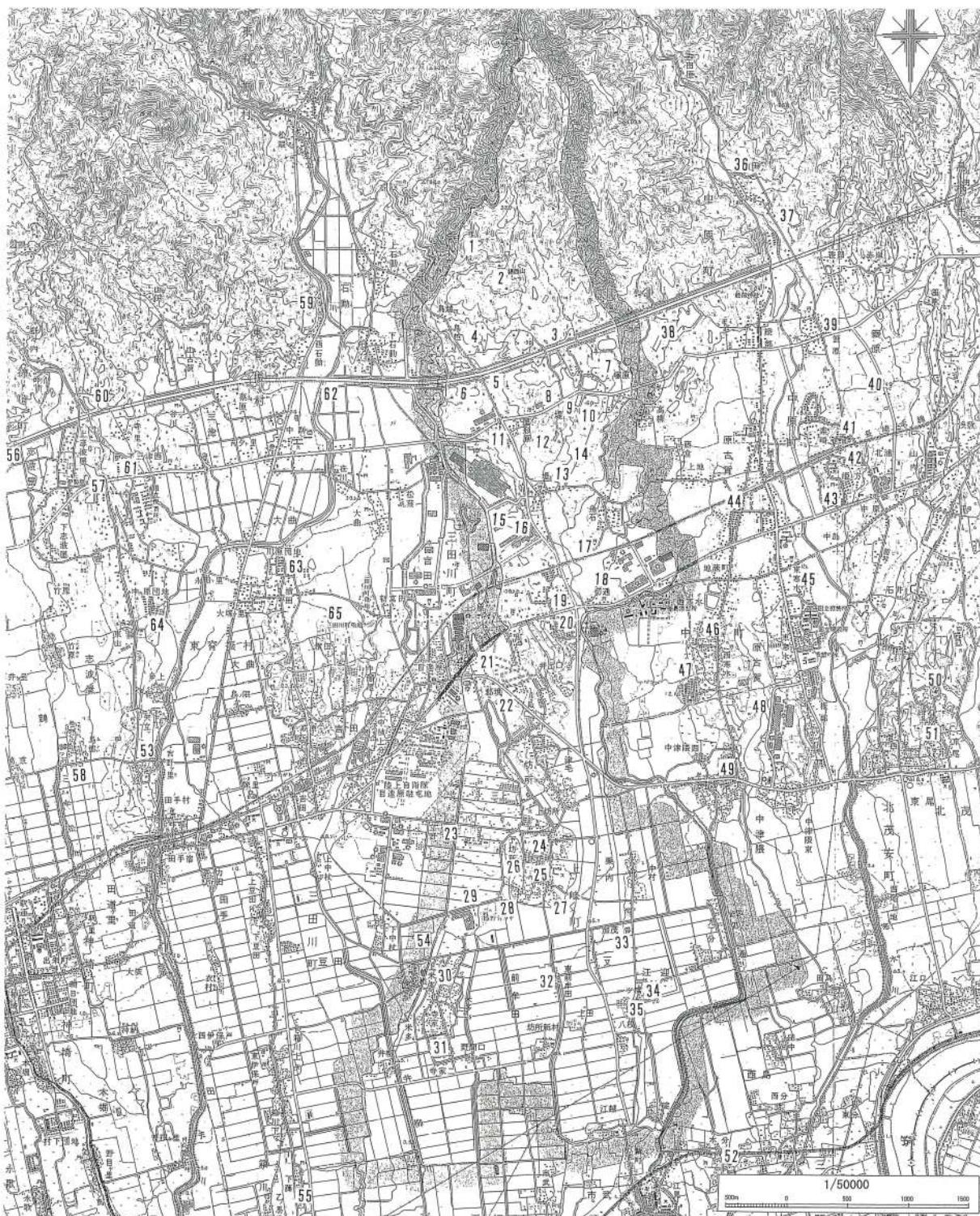
鳥栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する更新世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する更新世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に更新世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する更新世丘陵地域を中心に遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から更新世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもとくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鋳型を出土した鳥栖市安永田遺跡¹⁾、約400基の甕棺墓が検出された中原町姫方遺跡²⁾、埋納された12本の銅矛を出土した北茂安町検見谷遺跡³⁾、甕棺墓から舶載鏡を出土した神埼郡東脊振村三津永田遺跡⁴⁾、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼郡の神埼・三田川・東脊振の2町1村に跨る吉野ヶ里遺跡⁵⁾など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域を持つ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める更新世段丘上に弥生時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である⁶⁾。周辺地域では、神埼郡三田川町との境界に位置する二塚山丘陵の三田川町側からナイフ形石器の採取例が報告されている⁷⁾。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡下層における阿蘇4火碎流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている姶良-Tn火山灰(AT)の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」の表層を構成する黄褐色風



上峰町	12 堤六本谷遺跡	24 坊所城跡	中原町	47 西寒水遺跡	神埼町
1 奥の院古墳群	13 堤土塁跡	25 櫻寺遺跡	36 山田藏骨器出土地	48 宝満谷遺跡	56 志波屋六本松遺跡
2 鎮西山山城	14 八藤遺跡	26 杉寺遺跡	37 山田古墳群	49 宝満宮前方後円墳	57 伊勢塙前方後円墳
3 二本柳古墳群	15 二塚山遺跡	27 坊所二本松遺跡	38 大塚古墳	58 馬郡遺跡	
4 鎮西山南麓古墳群	16 五本谷遺跡	28 坊所三本松遺跡	39 八幡社遺跡	50 大塚古墳	東脊振村
5 堤三本松遺跡	17 船石遺跡	29 塔の塚廃寺跡	40 篠原遺跡	51 東尾銅劍出土遺跡	59 西石動古墳群
6 屋形原古墳群	18 船石南遺跡	30 西前牟田遺跡	41 姫方遺跡	52 本分貝塚	60 戰場ヶ谷遺跡
7 谷渡古墳群	19 切通遺跡	31 米多城跡	42 姫方前方後円墳	53 吉野ヶ里丘陵遺跡群	61 三津水田遺跡
8 堤三本柳遺跡	20 一本谷遺跡	32 前牟田城跡	43 姫方原遺跡	54 下中枕遺跡	62 西石動遺跡
9 青柳古墳群	21 坊所一本谷遺跡	33 加茂環濠集落跡	44 ドンドン落遺跡	55 吉野ヶ里丘陵遺跡群	63 松原遺跡
10 新立古墳群	22 上のびゅう塚古墳	34 江迎城跡	45 町南遺跡	56 下辛上廃寺跡	64 辛上廃寺跡
11 屋形原遺跡	23 目達原古墳群	35 一ノ橋環濠集落跡	46 天神遺跡	57 下藤貝塚	65 横田遺跡

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)

積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている⁸⁾。

縄文時代になると、中原町香田遺跡⁹⁾ や東脊振村戦場ヶ谷遺跡¹⁰⁾ などが出現する。町内においても、これまでにも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていったが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区¹¹⁾、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査¹²⁾において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥奴国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区の丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、甕棺墓から細形銅剣や貝釧を出土した切通遺跡¹³⁾、神埼郡東脊振村、三田川町に跨る、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い甕棺墓、土壙墓など約300基が調査され、舶載鏡、小型倣製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡¹⁴⁾、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡¹⁵⁾、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の甕棺墓が検出された船石遺跡¹⁶⁾などが知られている。また、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡¹⁷⁾、船石南遺跡¹⁸⁾、八藤遺跡¹⁹⁾から住居址や甕棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期には中原町姫方原遺跡²⁰⁾、上峰町五本谷遺跡²¹⁾などにおいて方形周溝墓が営まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀郡大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市劍塚古墳²²⁾、中原町姫方古墳²³⁾、上峰町西南部から神埼郡三田川町に跨る目達原古墳群²⁴⁾、神埼郡神埼町伊勢塚古墳²⁵⁾、佐賀市銚子塚古墳²⁶⁾、佐賀郡大和町船塚古墳²⁷⁾など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保 - 鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から神埼郡三田川町東部の目達原一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古稻荷塚、稻荷塚などの前方後円墳ほかからなる目達原古墳群²⁸⁾が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄剣、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳²⁹⁾が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、神埼郡三田川町下中杖遺跡³⁰⁾、同郡東脊振村下石動遺跡³¹⁾などが知られているが、弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、三田川町下中杖遺跡、東脊振村辛上廃寺跡³²⁾、靈仙寺跡³³⁾などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土壘跡³⁴⁾ や塔の塚廃寺跡³⁵⁾などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土壘跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設＝「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土壘の東方に接する八藤丘陵の調査において、土壘東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され³⁶⁾、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の塚廃寺跡は、百濟系単弁軒丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡³⁷⁾ の調査などでまとまった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の鎮西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前牟田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた³⁸⁾。しかし、昭和40年代後半からの圃場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡とともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している³⁹⁾。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

- 1) 藤瀬禎博・石橋新次 『袖比遺跡群範囲確認調査第3年次概要報告書』 鳥栖市文化財調査報告書第30集 鳥栖市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・天本洋一 『姫方遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第30集 佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭 『検見谷遺跡』 北茂安町文化財調査報告書第2集 北茂安町教育委員会 1986
- 4) 金関丈夫・坪井清足・金関恕 『佐賀県三津永田遺跡』『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他 『吉野ヶ里』 佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介 『八藤遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志 「原始」『上峰村史』 上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄 「II. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質」『佐賀平野の阿蘇4火砕流と埋没林』 上峰町文化財調査報告書第11集 上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋 「香田遺跡」『香田遺跡』 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐賀県文化

財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1981

- 10) 七田忠志 「佐賀県戦場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 『船石遺跡V』 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 『八藤遺跡II・堤土塁跡II』 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998
前出(6)
- 13) 金関丈夫・金関恕・原口正三 「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 「二塚山遺跡」『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 『一本谷遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 『船石遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II図録編』 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988
鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II本文編』 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989
原田大介 『船石遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990
原田大介 『船石遺跡IV』 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 18) 原田大介 『船石南遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002
原田大介 『船石南遺跡II』 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 19) 原田大介 『八藤遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 20) 木下巧他 『姫方原遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会 1976
- 21) 木下巧・七田忠昭 「五本谷遺跡」『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 『剣塚前方後円墳』 鳥栖市文化財調査報告書第22集 鳥栖市教育委員会 1984
- 23) 前出(2)
- 24) 松尾禎作 「目達原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下之治 「古代国家の形成」『佐賀県史』佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 『銚子塚』 佐賀市教育委員会 1976
- 27) 松尾禎作 『佐賀県考古大観』 祐徳博物館 1959
- 28) 前出(24)
- 29) 前出(16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 『下中杖遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第54集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 「下石動遺跡」『下石動遺跡』 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 佐賀県文化財調査報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾禎作 「東脊振村辛上廃寺跡の調査」 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第5輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳栄他 『雲仙寺跡』 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・柾一義 『堤土塁跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾禎作 「塔の塚廃寺址」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出(12)
原田大介 『八藤遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 「中世」『上峰村史』 上峰村 1979
- 39) 原田大介 『坊所城跡』 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

II. 調査の概要

1. 調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力を要請している。

2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、原則として $10m \times 3m$ の試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に $10m$ のメッシュを組み、このメッシュに $10m \times 3m$ の試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定し、試掘溝の配置計画を作成している。この試掘溝配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、確認調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を探ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。

試掘の結果、遺構などが検出された試掘溝については、適宜、遺構配置等の略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラ・デジタルカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

また、確認調査の結果、開発予定地内から遺構や遺物が検出された場合で、かつ、調査原因が個人専用住宅の建設、個人による自己所有農地の改良など、遺跡の記録保存等に係る経費について、これを開発主体者に求めることが困難であると認められる場合は、本補助事業の予算の範囲内において、検出された地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について記録保存を目的とした必要最小限の本調査を実施することとしている。

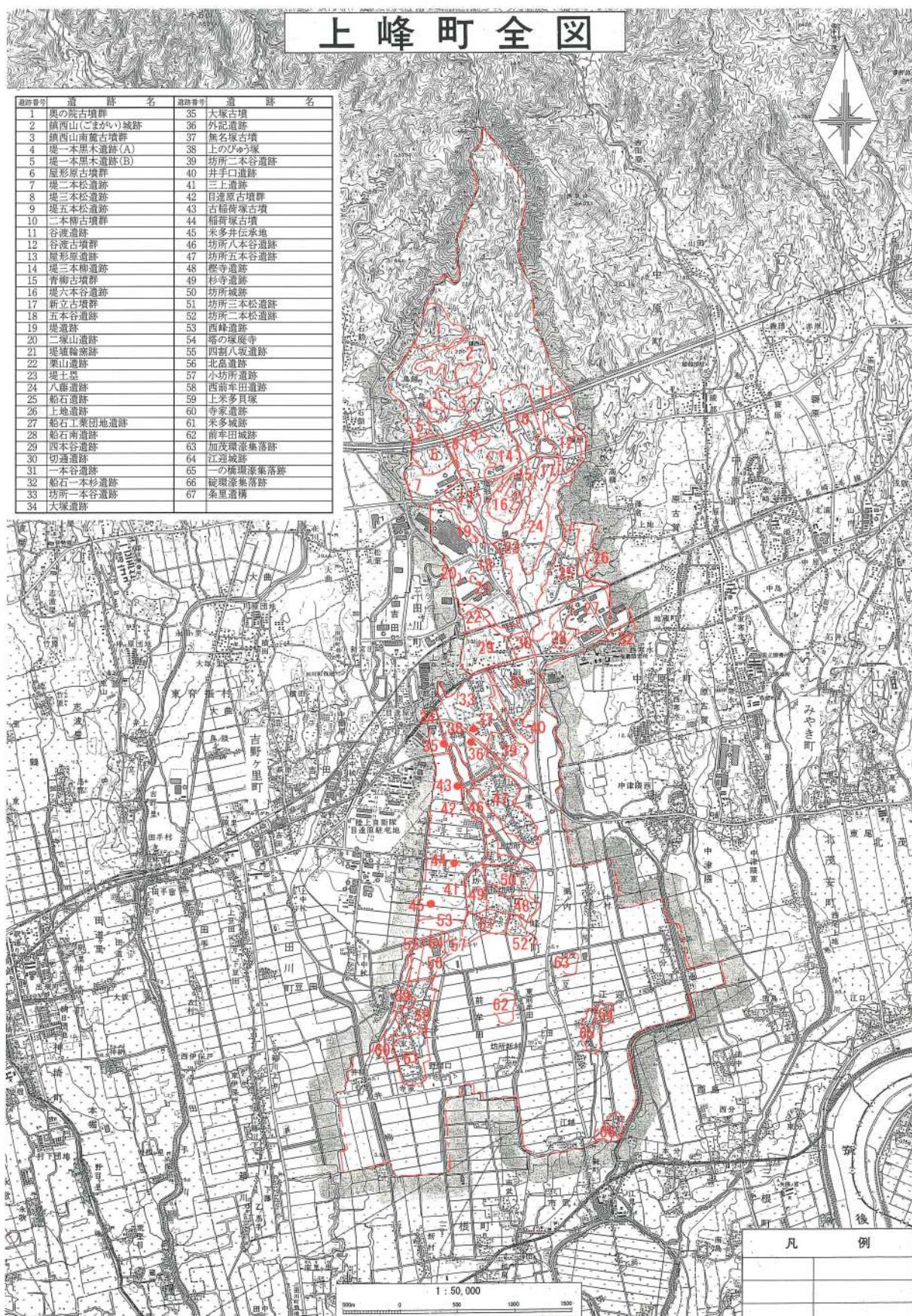


Fig. 2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)

III. 平成25年度の調査

Tab.1 平成25年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	周知外 下坊所地区	上峰町大字坊所字下坊所 1776番地10, 1776番地11, 1776番地12	上峰町	下水処理場増築工事	557	20	平成25年7月1日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	開発主体者が重機提供。
2	坊所五本谷遺跡	上峰町大字坊所字五本谷 1902番地2	個人	個人専用住宅建設工事	265	24	平成25年5月21日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
3	碇環濠集落跡	上峰町大字江迎字二本柳 899番地8	株アーネストワン	分譲住宅建設工事	302	17	平成25年6月6日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
4	一本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所字一本谷 2552番地105の一部	(有)寺田鐵工所	倉庫建設工事	243	16	平成25年7月25日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
5	坊所二本谷遺跡	上峰町大字坊所字二本谷 2422番地2	一建設㈱	分譲住宅建設工事	358	36	平成25年7月17日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
6	周知外 井手口地区	上峰町大字坊所字三本谷 2339番地1, 2340番地, 2341番地1, 2341番地2, 2342番地1	株ソクト	事務所・倉庫建設工事	5,081	165	平成25年8月6日 平成25年8月7日 平成25年8月21日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
7	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字西峰 2976番地3	個人	個人専用住宅建設工事	365	36	平成25年7月4日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
8	四本谷遺跡	上峰町大字堤字四本谷 1903番地18	松尾建設㈱	埋蔵文化財の有無確認	5,737	480	平成25年7月5日 平成25年7月8日 平成25年7月9日 平成25年7月10日	遺構・遺物は検出されなかった。	埋蔵文化財無し。	
9	一本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所字二本谷 2577番地29	個人	個人専用住宅建設工事	221	20	平成25年9月26日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
10	西前牟田遺跡(1)	上峰町大字前牟田字祇園町 1610番地1	(有)ホームサポート	賃貸住宅建設工事	713	72	平成25年8月20日	中世の井戸跡を検出し、舶載青磁碗片が出土した。一部に遺物包含層が遺存していることを確認した。	工事実施中。	検出された遺構については、造成計画高の変更による盛土保存。
11	坊所一本谷遺跡	上峰町大字坊所字七本谷 1539番地1, 1539番地9, 1550番地4, 1583番地4	株ダイナムビジネスサポート	遊技場・駐車場建設工事	3,760	166	平成25年8月28日 平成25年8月29日 平成25年9月2日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
12	周知外 上坊所地区	上峰町大字坊所字上坊所 307番地1, 307番地2, 307番地3, 307番地4の一部	ドリームホーム(㈱)	分譲宅地造成工事	3,531	120	平成25年9月18日 平成25年9月19日 平成25年9月20日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
13	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字杉寺 1368番地1	個人	個人専用住宅建設工事	707	72	平成25年10月16日	溝跡、土壤、ピットなどを検出し、溝跡の覆土中に土師器・須恵器の小片が確認された。	工事実施。	検出された遺構については、造成計画高で工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
14	船石遺跡	上峰町大字堤字三本杉 653番地	個人	農業用倉庫建設工事	79	8	平成25年10月3日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
15	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字西峰 2795番地1	(有)シティ開発	分譲宅地造成工事	1,897	89	平成25年10月17日	ピットを検出した。遺物は検出されなかった。	工事実施中。	宅地内の上下水道管路埋設には工事立会。その他の部分について造計画高で工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。
16	三上遺跡(3)	上峰町大字坊所字西峰 2962番地3	個人	埋蔵文化財の有無確認	441	20	平成25年10月16日	遺構・遺物は検出されなかった。	埋蔵文化財無し。	
17	周知外 切通地区	上峰町大字堤字一本谷 969番地2	個人	個人専用住宅建設工事	301	16	平成25年10月22日	近世以降の遺構・遺物は確認されたが、中世以前の遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
18	西前牟田遺跡(2)	上峰町大字前牟田字祇園町 1638番地7	個人	個人専用住宅建設工事	495	32	平成25年11月8日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
19	周知外 上米多地区	上峰町大字前牟田字五本杉 1557番地1の一部	個人	農業用倉庫・通路建設工事	166	8	平成25年11月8日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
20	坊所城跡(1)	上峰町大字坊所字樫寺 813番地1, 814番地	個人	個人専用住宅建設工事	1,011	72	平成25年12月3日	ピットを検出した。ピット内に陶器片を確認した。	工事未実施。	
21	周知外 江迎地区	上峰町大字江迎字江迎 1520番地6, 1520番地7	個人	資材置き場造成工事	499	20	平成26年1月24日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
22	坊所城跡(2)	上峰町大字坊所字樫寺 820番地, 821番地1	個人	個人専用住宅建設工事	924	143	平成25年12月26日 平成26年2月25日	井戸跡、溝跡、土壤、ピットなどを検出し、近世・近代の陶磁器片を確認した。	本調査終了後、工事実施中。	建物建築部分 96 m ² について記録保存を目的として本調査を実施。
23	三上遺跡(4)	上峰町大字坊所字三上 3220番地1, 3250番地1	個人	太陽光発電設備設置及び資材置き場造成工事	2,697	80	平成26年2月10日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
24	三上遺跡(5)	上峰町大字坊所字西峰 2927番地1	個人	個人専用住宅建設工事	946	30	平成26年2月21日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	

合 計

31,296

1,762



Fig. 3 平成25年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

H 25-1

遺跡名：周知外 下坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：下水処理場増築工事

工事面積：557m²

調査面積：20m²

調査時期：平成25年7月1日

立地と環境：調査対象地区は、上峰町大字坊所字下坊所に所在し、本町中南部の坊所地区、櫻寺遺

跡、坊所城跡、坊所二本松遺跡などが所在する坊所丘陵の東側の沖積地、標高6m付近に位置している。今回の調査対象地区は、旧来水田として利用されてきたが、近年、周辺の坊所団地、坊所地区下水処理場などの建設に伴い、坊所農村公園が設置され公園の一部として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施中。



Fig. 4 周知外 下坊所地区 (1/5,000)



PL. 1 作業状況

H 25-2

遺跡名：坊所五本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：265 m²

調査面積：24 m²

調査時期：平成25年5月21日

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、本町郡境集落付近から下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南部、標高約7~16m付近に広がる弥生、古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

現下津毛集落が立地する下津毛丘陵は丘陵の東西を谷水田が走り南北に細長い舌状の丘陵で、丘陵北部には坊所一本谷遺跡、外記遺跡、上のびゅう塚（都紀女加王墓）などが所在し、南部には本遺跡が立地している。

今回の調査対象区域は、この下津毛丘陵の中南部西辺部、標高 16m 付近に位置しており、旧来宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



PL. 2 調査区全景

H 25-3

遺跡名：碇環濠集落跡

調査地：上峰町大字江迎字二本柳

工事内容：分譲住宅建設工事

工事面積：302m²

調査面積：17m²

調査時期：平成25年6月6日

立地と環境：碇環濠集落跡は、本町南部、現碇集落一帯の沖積地、標高4m～5m付近に広がる中世の環濠集落遺跡である。

本町の南部を占める大字前牟田地区、大字江迎地区の沖積平野部には、本碇環濠集落跡のほか、米多城跡、前牟田城跡、加茂環濠集落跡、一の橋環濠集落跡、江迎城跡などの中世の城館跡、集落跡が点在している。

今回の調査対象地は、碇環濠集落跡の南西部、標高4m付近に位置しており、調査対象地を含む区域は、旧来水田として利用されてきたが、先年分譲宅地として造成工事が実施され更地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 6 碇環濠集落跡 (1/5,000)



PL. 3 調査区全景

H 25-4

遺跡名：一本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字一本谷

工事内容：倉庫建設工事

工事面積：243m²

調査面積：16m²

調査時期：平成25年7月25日

立地と環境：一本谷遺跡は、本町北部の大字堤地区の
二塚山丘陵から国道34号線以南の本町

中部の大字坊所字一本谷付近へ延びる井手口丘陵上に広がる縄文時代から古墳時代に及ぶ集落・墳
墓遺跡である。

本遺跡周辺には北方国道34号線北側に切通遺跡、四本谷遺跡などの二塚山遺跡群が、また西方
の丘陵上には坊所一本谷遺跡、坊所二本谷遺跡などが所在している。

今回の調査対象区域は、この井手口丘陵の基部、標高22m付近に位置しており、鉄工所の敷地内
の作業用スペースとして利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

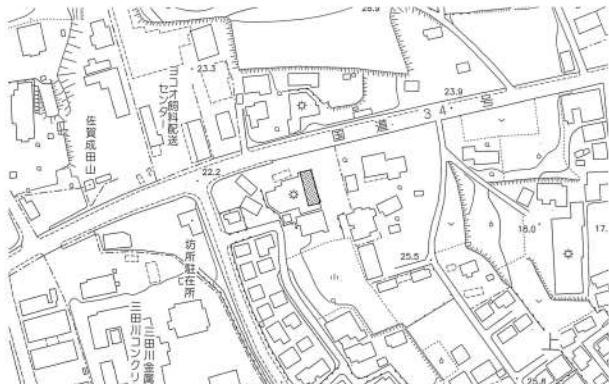


Fig. 7 一本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL. 4 調査区全景

H 25-5

遺跡名：坊所二本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：分譲住宅建設工事

工事面積：358m²

調査面積：36m²

調査時期：平成25年7月17日

立地と環境：坊所二本谷遺跡は、本町堤地区付近から井手口住宅地区付近へ延びる井手口西丘陵

の南部、標高12～24m付近に広がる縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

本遺跡が立地する井手口西丘陵北部には坊所一本谷遺跡が所在し、佐賀成田山付近を谷頭とする谷水田を挟んで東方の井手口東丘陵上には一本谷遺跡や井手口遺跡が、またイオン上峰店付近を谷頭とする谷水田を挟んで南西の下津毛丘陵上には外記遺跡、坊所五本谷遺跡がそれぞれ所在している。

今回の調査対象区域は、この井手口西丘陵の東辺部、標高16m付近に位置しており、既に宅地として造成され、既存の共同住宅撤去後は更地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

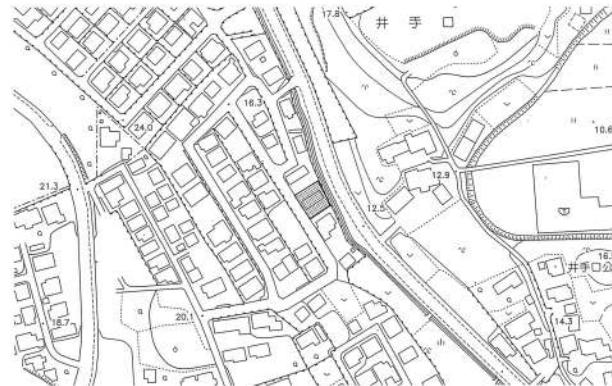


Fig. 8 坊所二本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 5 No.1試掘溝

H 25-6

遺跡名：周知外 井手口地区

調査地：上峰町大字坊所字三本谷

工事内容：倉庫・事務所建設工事

工事面積：5,081m²

調査面積：165m²

調査時期：平成25年8月6日・7日・21日

立地と環境：調査対象地区は、上峰町大字坊所字三本谷に所在し、本町のほぼ中央、井手口地区の

切通川西岸の沖積地標高10m付近に位置し、これまで水田として利用されていた。

開発予定地の西側には一本谷遺跡、井手口遺跡が所在する井手口東丘陵が舌状に南北に伸びている。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



PL. 6 調査区全景

H 25-7

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：365m²

調査面積：36m²

調査時期：平成25年7月4日

立地と環境：三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本

町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中

央部、標高約8～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稻荷塚、稻荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

今回の調査対象区域は、目達原丘陵の中央南部、標高11m付近に位置しており、これまで樹木畠として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.10 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL. 7 No.2試掘溝

H 25-8

遺跡名：四本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：5,737m²

調査面積：480m²

調査時期：平成25年7月5日、8日～10日

立地と環境：四本谷遺跡は、本町中北部、現切通集落西方、二塚山丘陵の南部、標高20m～38m付近に位置する弥生時代の墳墓遺跡である。

本遺跡周辺には、北方の二塚山丘陵一帯には二塚山遺跡、五本谷遺跡、切通遺跡など同時代の墳墓遺跡が、また南方には集落遺跡である一本谷遺跡が所在している。

調査対象区域は、現切通集落西方、二塚山丘陵南部標高24m付近に位置し、これまで資材置き場として利用されてきたが、現在は倉庫等の既存施設が撤去され空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：埋蔵文化財なし。

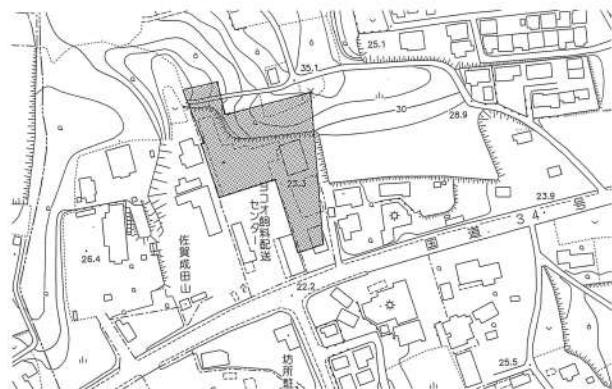


Fig.11 四本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 8 作業状況

H 25-9

遺跡名：一本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字一本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：221m²

調査面積：20m²

調査時期：平成25年9月26日

立地と環境：一本谷遺跡は、本町北部の大字堤地区の

二塚山丘陵から国道34号線以南の本町

中部の大字坊所字一本谷付近へ延びる井手口丘陵上に広がる縄文時代から古墳時代に及ぶ集落および墳墓遺跡である。

本遺跡周辺には北方国道34号線北側に切通遺跡、四本谷遺跡などの二塚山遺跡群が、また西方の丘陵上には坊所一本谷遺跡、坊所二本谷遺跡などが所在している。

今回の調査対象区域は、この井手口丘陵の中央部、標高18m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

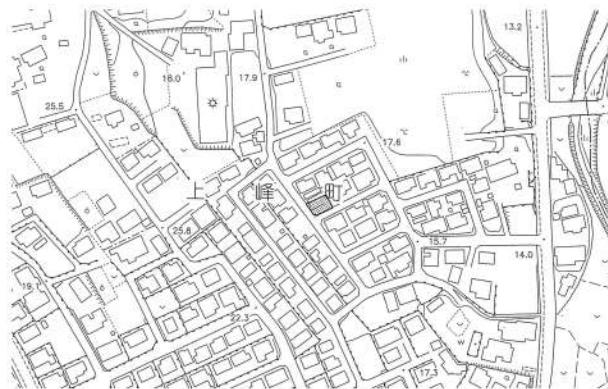


Fig.12 一本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL. 9 調査区全景

H 25-10

遺跡名：西前牟田遺跡(1)

調査地：上峰町大字前牟田字祇園町

工事内容：賃貸住宅建設工事

工事面積：713m²

調査面積：72m²

調査時期：平成25年8月20日

立地と環境：西前牟田遺跡は、本町南西部、現上米多

集落付近へ延びる目達原丘陵南端部に

位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

西前牟田遺跡が立地する目達原丘陵南端の微高地は、現下米多集落付近で沖積地に没するが、本遺跡の一部には上米多貝塚が知られ、南部の沖積地にまたがる一帯は中世城館跡である米多城跡などが所在している。

今回の調査対象区域はこの目達原丘陵の南部の微高地西辺部、標高 5m 付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：中世井戸跡1基、遺物包含層が検出され、舶載青磁碗片が出土した。

調査後措置：検出された遺構については、造成計画高変更により盛土保存し工事実施。

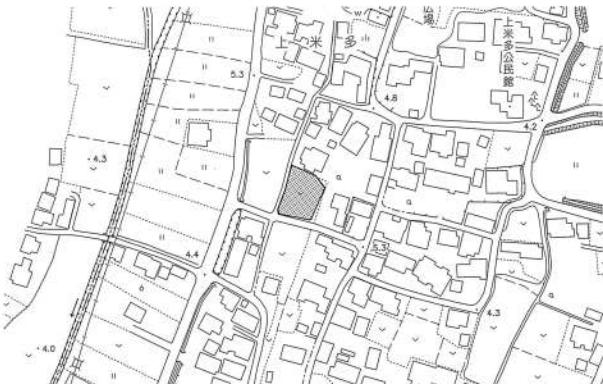


Fig.13 西前牟田遺跡(1) (1/5,000)



PL.10 No.2試掘溝 遺構検出状況

H 25-11

遺跡名：坊所一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：遊技場及び駐車場建設工事

工事面積：3,760m²

調査面積：166m²

調査時期：平成25年8月28日・29日・9月2日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、本町堤地区付近から井

手口住宅地区付近へ延びる井手口西丘陵

の北西部、標高20m付近に広がる弥生時代の集落遺跡である。

本遺跡が立地する井手口西丘陵南部には坊所二本谷遺跡が所在し、佐賀成田山付近を谷頭とする谷水田を挟んで東方の井手口東丘陵上には一本谷遺跡や井手口遺跡が、またイオン上峰店付近を谷頭とする谷水田を挟んで南西の下津毛丘陵上には外記遺跡、坊所五本谷遺跡がそれぞれ所在している。

今回の調査対象区域は、遊技場に付帯する駐車場用地で、この下津毛丘陵の北西部、標高23m付近に位置しており、これまで東佐賀自動車学校の敷地であった。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

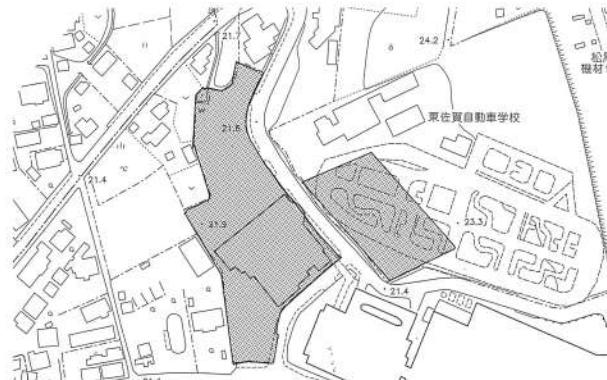


Fig.14 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)



PL.11 作業状況

H 25-12

遺跡名：周知外 上坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：3,531m²

調査面積：120m²

調査時期：平成25年9月18日～20日

立地と環境：調査対象区域は、町中南部に位置し現上坊所集落が立地し、櫻寺遺跡、坊所城跡などが所在する坊所丘陵の東部、切通川西岸の沖積地、標高6m付近に位置し、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.15 周知外 上坊所地区 (1/5,000)



PL.12 調査区全景

H 25-13

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字杉寺

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：707m²

調査面積：72m²

調査時期：平成25年10月16日

立地と環境：杉寺遺跡は、本町大字坊所字杉寺に所在す

る弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、吉

野ヶ里町目達原付近から本町前牟田集落付近に延びる目達原丘陵東辺部、および同丘陵から町中南部の現上坊所、下坊所集落付近へ派生する坊所丘陵の西辺部に跨って位置している。

本遺跡の周辺には、西側の目達原丘陵上に三上遺跡、米多の井伝承地、塔の塚廃寺跡などの遺跡が、東側の坊所丘陵上には桜寺遺跡、坊所城跡などの遺跡がそれぞれ所在している。

今回の調査対象地は、目達原丘陵から本町坊所地区へ派生する坊所丘陵西側の基部、坊所城跡西辺に隣接する標高 11m 付近に位置しており、これまで畠として利用されていた。

遺構と遺物：1条の溝跡の他、土壌、ピットなどが検出され、溝跡の覆土中に土師器・須恵器の小片が散見された。

調査後措置：検出された遺構については工事の影響が及ばないことを確認。盛土保存し、工事実施。

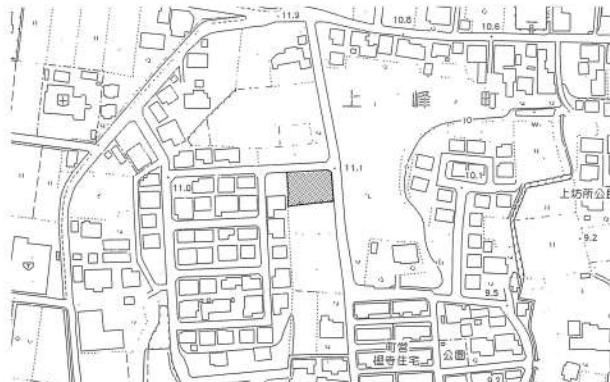


Fig.16 杉寺遺跡 (1/5,000)



PL.13 No.2試掘溝 遺構検出状況

H 25-14

遺跡名：船石遺跡

調査地：上峰町大字堤字三本杉

工事内容：農業用倉庫建設工事

工事面積：79m²

調査面積：8m²

調査時期：平成25年10月3日

立地と環境：船石遺跡は、みやき町（旧中原町）高柳

集落付近から本町切通集落付近へ派生

する船石丘陵一帯に所在する弥生時代の集落、墳墓を主体とする縄文時代から中世に及ぶ複合遺跡である。

本町北部の堤地区には、地区を南流する切通川東岸に船石丘陵、八藤丘陵、同川西岸には二塚山丘陵が発達し、それぞれの丘陵上には船石遺跡はじめ八藤遺跡、二塚山五本谷遺跡、切通遺跡など町を代表する弥生時代の集落・墳墓遺跡が高い密度で分布している。

今回の調査対象区域は、船石丘陵の中北部、丘陵の東辺部、標高 27m 付近に位置しており、これまで宅地内の小屋として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.17 船石遺跡 (1/5,000)



PL.14 作業状況

H 25-15

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,897m²

調査面積：89m²

調査時期：平成25年10月17日

立地と環境：三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本

町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中

央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稻荷塚、稻荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた

今回の調査対象区域は、目達原丘陵の中央南部、標高9m付近に位置しており、これまで水田、畑として利用されていた。

遺構と遺物：ピットなどが検出されたが、遺物は出土しなかった。

調査後措置：上下水道管路埋設部分については工事立会いを実施、宅地部分については検出された遺構には工事の影響が及ばないことを確認。盛土保存し、工事実施。



Fig.18 三上遺跡(2)(1/5,000)



PL.15 No.2試掘溝 遺構検出状況

H 25-16

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：441m²

調査面積：20.m²

調査時期：平成25年10月16日

立地と環境：三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中

央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稻荷塚、稻荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

今回の調査対象区域は目達原丘陵の北部、標高 10m 付近に位置しており、これまで畠として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：埋蔵文化財なし。



Fig.19 三上遺跡(3) (1/5,000)



PL.16 作業状況

H 25-17

遺跡名：周知外 切通地区

調査地：上峰町大字堤字一本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：301m²

調査面積：16m²

調査時期：平成25年10月22日

立地と環境：調査対象区域は、町中部切通地区の国道34

号線北側に所在し、切通川東岸の沖積地、

標高14m付近に位置し、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

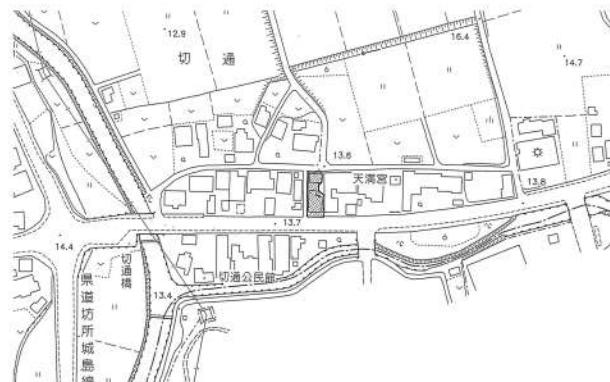


Fig.20 周知外 切通地区 (1/5,000)



PL.17 No.1試掘溝

H 25-18

遺跡名：西前牟田遺跡(2)

調査地：上峰町大字前牟田字祇園町

工事內容：個人用住宅建設工事

工事面積：495m²

調查面積：32m²

調査時期：平成25年11月8日

立地と環境：西前牟田遺跡は、本町南西部現上米多集落付近へ延びる目達原丘陵南端部の微

高地上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

西前牟田遺跡が立地する目達原丘陵南端の微高地は、現下米多集落付近で沖積地に没するが、本遺跡の一部には上米多貝塚が知られ、南部の沖積地にまたがる一帯は中世城館址である米多城跡などが所在している。

今回の調査対象区域はこの目達原丘陵の南部の微高地西辺部、標高4m付近に位置しており、これまで畠として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.21 西前牟田遺跡(2) (1/5,000)



PL.18 No.1 試掘溝

H 25-19

遺跡名：周知外 上米多地区

調査地：上峰町大字前牟田字五本杉

工事内容：工業用倉庫・通路建設工事

工事面積：166m²

調査面積：8m²

調査時期：平成25年11月8日

立地と環境：調査対象区域は、上米多地区の県道神埼北

茂安線北側、現上米多集落付近へ延びる目

達原丘陵西側を南流する西の川西岸の沖積地標高6m付近に位置し、これまで畠として利用されていました。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

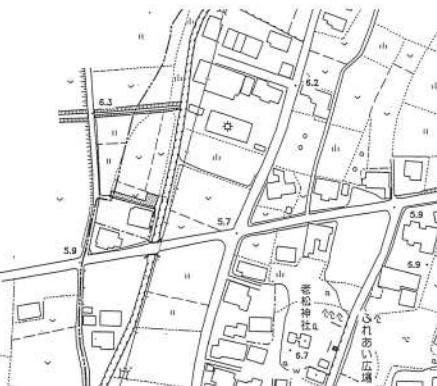


Fig.22 周知外 上米多地区 (1/5,000)



PL.19 調査区全景

H 25-20

遺跡名：坊所城跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字櫻寺

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：1,011m²

調査面積：72m²

調査時期：平成25年12月3日

立地と環境：坊所城跡は、上峰町中南部、大字坊所字櫻寺一帯に城域をもつ中世の城館跡で、

吉野ヶ里町目達原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約9m～11m付近に位置している。平成3年に実施した分譲宅地造成工事に伴う城域の南西部分の調査では土壘、掘立柱建物、溝跡、井戸などが検出され、16世紀後半の舶載染付磁器片などが出土している。周辺には櫻寺遺跡・杉寺遺跡など中世の集落遺跡が分布している。

今回の調査対象区域は、坊所丘陵の北部、坊所城跡の城域の北部、標高11m付近に位置しており、宅地、畠として利用されていた。

遺構と遺物：ピットが検出されたが、遺物は出土しなかった。

調査後措置：検出された遺構については、盛土造成により工事の影響が及ばないことを確認し、工事実施。

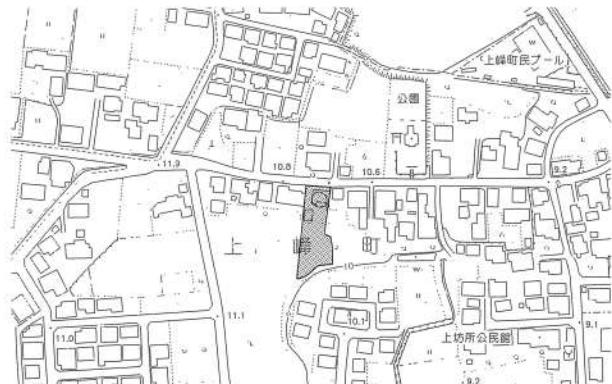


Fig.23 坊所城跡(1) (1/5,000)



PL.20 No.2試掘溝 遺構検出状況

H 25-21

遺跡名：周知外 江迎地区

調査地：上峰町大字江迎字江迎

工事内容：資材置き場造成工事

工事面積：499m²

調査面積：20m²

調査時期：平成26年1月24日

立地と環境：調査対象区域は、町南東部、江迎地区に所
在し、江迎城跡の南方標高5m付近の沖積地

に位置し、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



PL.21 調査区全景

H 25-22

遺跡名：坊所城跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字櫻寺

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：924m²

調査面積：143m²

調査時期：平成25年12月26日・平成26年2月25日

立地と環境：坊所城跡は、上峰町中南部、大字坊所字
櫻寺一帯に城域をもつ中世の城館跡で、

吉野ヶ里町目達原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約9m～11m付近に位置している。平成3年に実施した分譲宅地造成工事に伴う城域の南西部分の調査では土壙、掘立柱建物、溝跡、井戸などが検出され、16世紀後半の舶載染付磁器片などが出土している。周辺には櫻寺遺跡・杉寺遺跡など中世の集落遺跡が分布している。

今回の調査対象区域は、坊所丘陵の北部、坊所城跡の城域の北部、標高10m付近に位置しており、宅地として利用されていた。

遺構と遺物：中世から近代に及ぶ井戸跡、溝跡、土壙、ピットなどが検出され、一部の土壙覆土中に近世以降の陶磁器片を確認した。

調査後措置：建物建設予定部分96m²について記録保存を目的として本調査を実施。本調査後、工事実施。

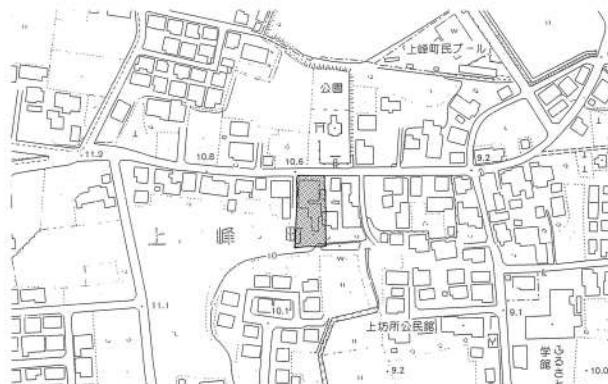


Fig.25 坊所城跡(2) (1/5,000)



PL.22 No.4試掘溝 遺構検出状況

H 25-23

遺跡名：三上遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：太陽光発電設備設置及び資材置場造成工事

工事面積：2,697 m²

調査面積：80 m²

調査時期：平成26年2月10日

立地と環境：三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中

央部、標高約8～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稲荷塚、稻荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

今回の調査対象区域は目達原丘陵の北部、標高 16m 付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置、工事実施。



Fig.26 三上遺跡(4) (1/5,000)



PL.23 調査区全景

H 25-24

遺跡名：三上遺跡(5)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：946m²

調査面積：30m²

調査時期：平成26年2月21日

立地と環境：三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中

央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稻荷塚、稻荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

今回の調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高 10m 付近に位置しており、これまで畠として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置、工事実施。



Fig.27 三上遺跡(5) (1/5,000)



PL.24 No.3試掘溝



Fig.28 平成25年度 本調査地位置図 坊所城跡3区 (1/50,000)

坊所城跡3区発掘調査 (Fig.28~37・PL.25~30)

遺 跡 名：坊所城跡3区

調 査 地： 上峰町大字坊所字樫寺820番地・821番地1

調査原因：個人専用住宅建設工事

調査面積：96m²

調査時期：平成26年3月1日～7日

坊所城跡は、上峰町中南部、現上峰所集落が所在する大字坊所字樫寺一帯に城域をもつ中世の城館跡で、吉野ヶ里町目達原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約9m～11m付近に位置している。平成3年に実施した分譲宅地造成工事に伴う城域の南西部分の調査では土壙、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡などが検出され、中世土器片とともに16世紀後半の船載染付磁器片などが出土している。周辺には樫寺遺跡・杉寺遺跡など中世の集落遺跡が分布している。



Fig.29 坊所城跡3区 調査区位置図 (1/2,500)

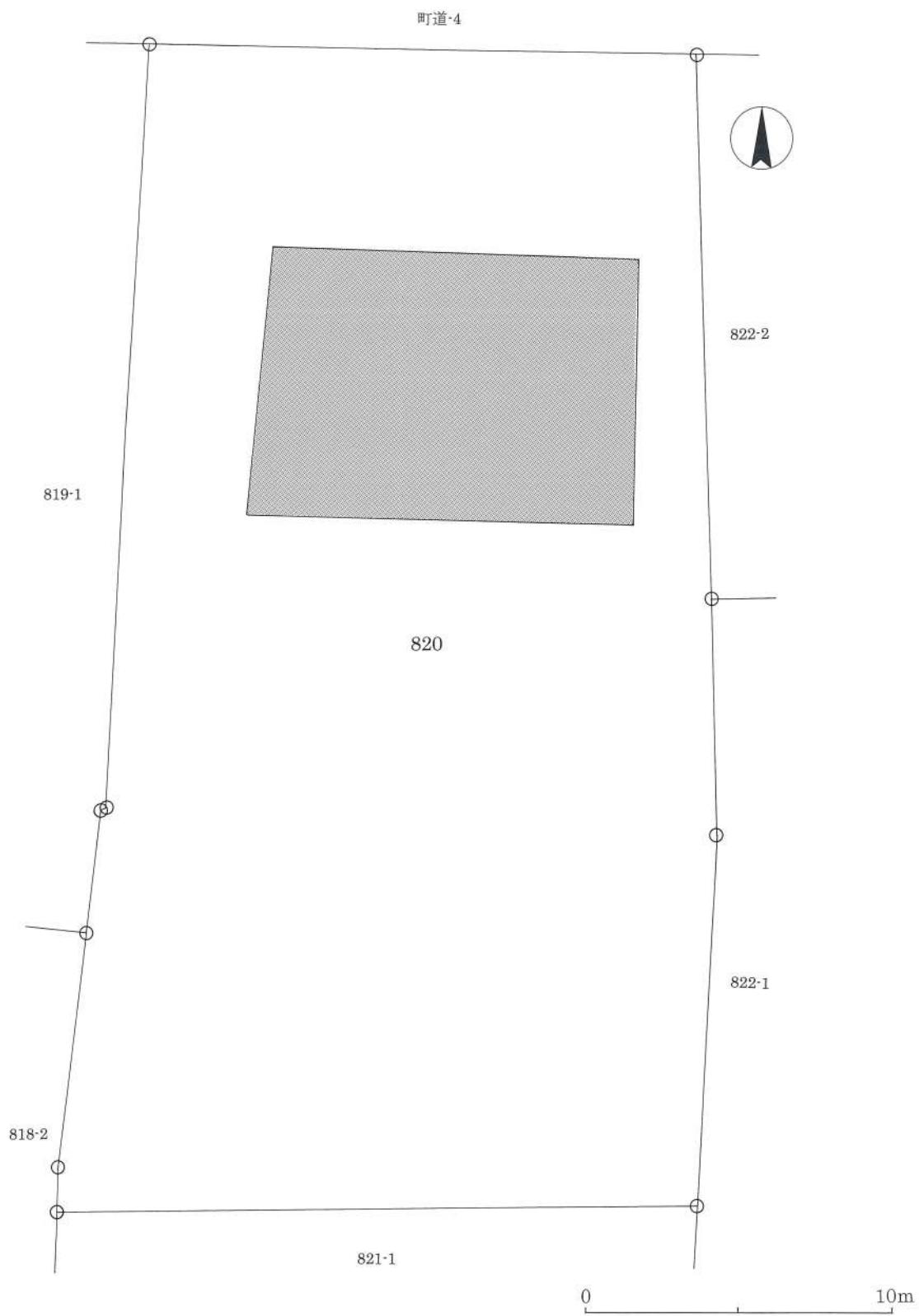


Fig.30 坊所城跡3区 調査範囲位置図 (1/200)

平成25年12月26日、平成26年2月25日に実施した確認調査において遺構、遺物が検出されたことを受け、住宅基礎工事の影響が及ぶ範囲96m²について記録保存を目的とした本調査を実施した。

その結果、中世から近代に及ぶ土壙、ピットなどが検出され、それらの遺構から中世土器片、近世陶磁器片、近代陶磁器片などがコンテナボックス10箱分出土した。

今回の調査の結果、坊所城跡に伴う中世の遺構、遺物は検出されなかつたが、近世から近代に及ぶ遺構、遺物を検出し、中世坊所城以降、近代に及ぶ遺構がかなりの密度で良好な状況で依存していることが改めて確認され、坊所城以降の本区域の時代的な変遷を考える上で貴重な資料を得ることができた。

遺構 (Fig.31～35・PL.27, 28)

今回の調査で検出された遺構は、近世以降の埋め甕3基、土壙等20基、溝跡2条であった。出土遺物などからそのほとんどが近世以降の所産になるものと考えられる。

埋め甕・土壙 (Fig.31～34・PL.27)

埋め甕3基、土壙等20基が検出された。内、埋め甕3基、土壙等15基を調査した。覆土中の遺物から明らかに近代以降の所産と考えられるSK-316～SK-320は、平面プランを確認するにとどめた。

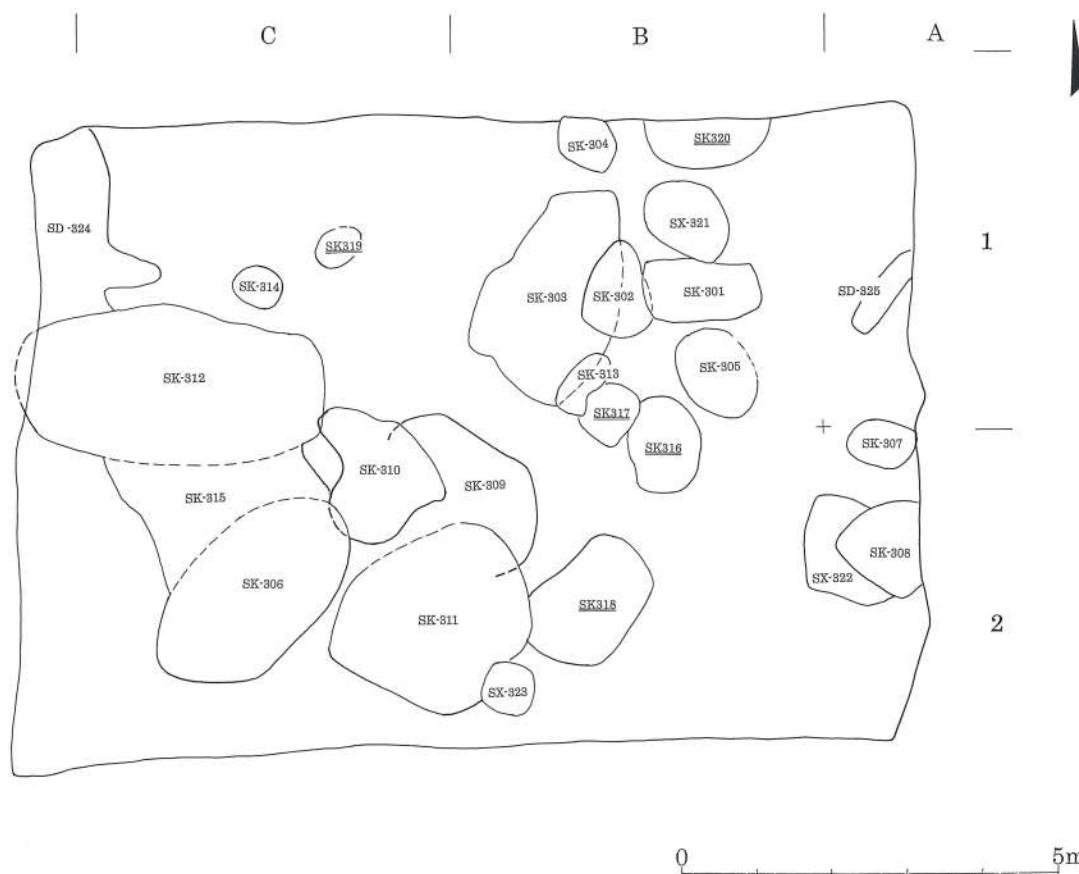


Fig.31 坊所城跡3区 遺構配置図 (1/100)

SX-321～SX-323は、近世又は近代の埋め甕。いずれも掘り方の中に陶器甕の胴部の一部が遺存している。

SK-301～SK-320は、近世～近代の所産の土壌。

Tab. 2 坊所城跡3区 出土埋め甕・土壌等一覧表

遺構番号	平面形態	規模(上段…上面・下段…底面) 単位:m・m ²				出土遺物	備考
		長さ・長径	幅・短径	深さ	底面積		
SK-301	不整方形	1.50 1.40	0.90 0.65	0.40	0.9	磁器碗・皿、陶器皿、瓦器鉢・甕	江戸時代
SK-302	不整形	(1.50) 0.60	1.30 0.60	0.35	0.5		江戸時代
SK-303	不整形	2.80 2.50	(1.45) (1.00)	0.25	2.3		江戸時代
SK-304	不整方形	0.80 0.40	0.65 0.30	0.41	0.2		
SK-305	不整円形	1.30 1.10	(0.90) (0.70)	0.14	0.7		
SK-306	不整橢円形	3.10 2.60	(1.95) (1.60)	0.87	3.2		
SK-307	不整円形	0.70 0.40	0.65 0.30	0.48	1.2		江戸時代
SK-308	不整円形	※1.00 ※0.90	1.10 0.75	0.31	0.5		江戸時代
SK-309	不整形	2.45 2.05	※1.00 ※0.80	0.43	1.4		
SK-310	不整形	1.85 0.90	1.45 0.70	0.38	0.6		明治～近代時代
SK-311	不整円形	2.60 2.30	2.60 2.20	0.70	3.6	磁器蓋	江戸～明治時代
SK-312	不整橢円形	(4.15) 3.80	1.90 1.45	0.75	5.32	磁器碗・皿、陶器擂鉢、焰焰	江戸～明治時代
SK-313	不整形	1.00 0.55	0.50 0.25	0.48	0.2		
SK-314	不整円形	0.80 0.60	0.60 0.40	0.22	0.2		
SK-315	不明	※1.50 ※1.50	2.50 2.15	0.72	1.9		
SK-316							明治時代～
SK-317							明治時代～
SK-318							明治時代～
SK-319							明治時代～
SK-320							明治時代～
SX-321	隅丸方形	1.24 1.03	1.04 0.84	0.12	0.7	磁器碗・蓋物・花器、皿・火鉢・七輪ガラス玉、土製品、石臼	江戸～明治時代
SX-322	不整形	※1.40 ※1.00	1.30 1.08	0.17	0.8		江戸～明治時代
SX-323	不整円形	0.68 (0.40)	0.67 0.21	0.22	0.2		江戸～近代

溝跡 (Fig.35・PL.28)

溝跡は、2条検出した。いずれも近世以降の所産と考えられる。

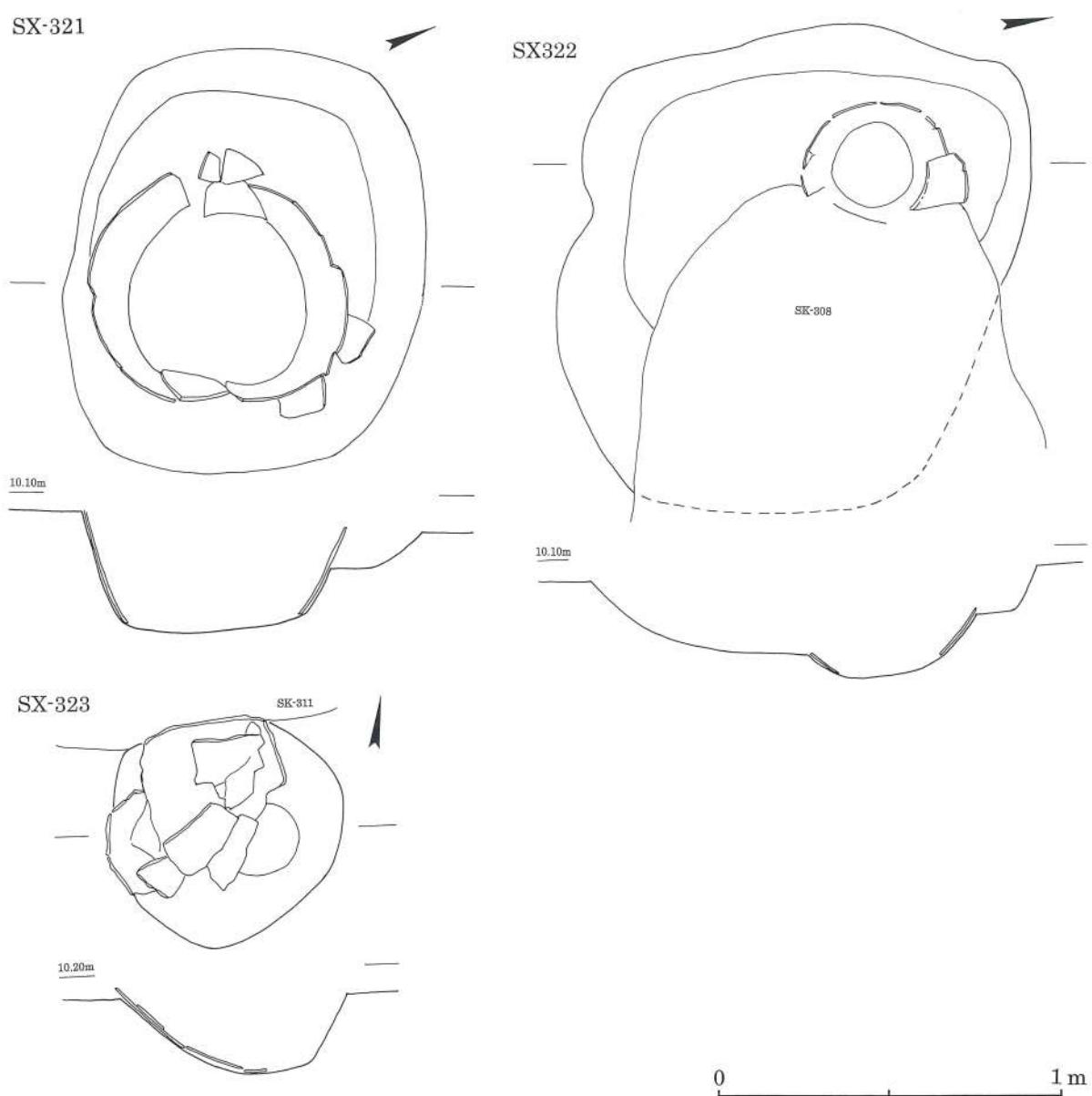


Fig.32 坊所城跡3区 遺構実測図(1)

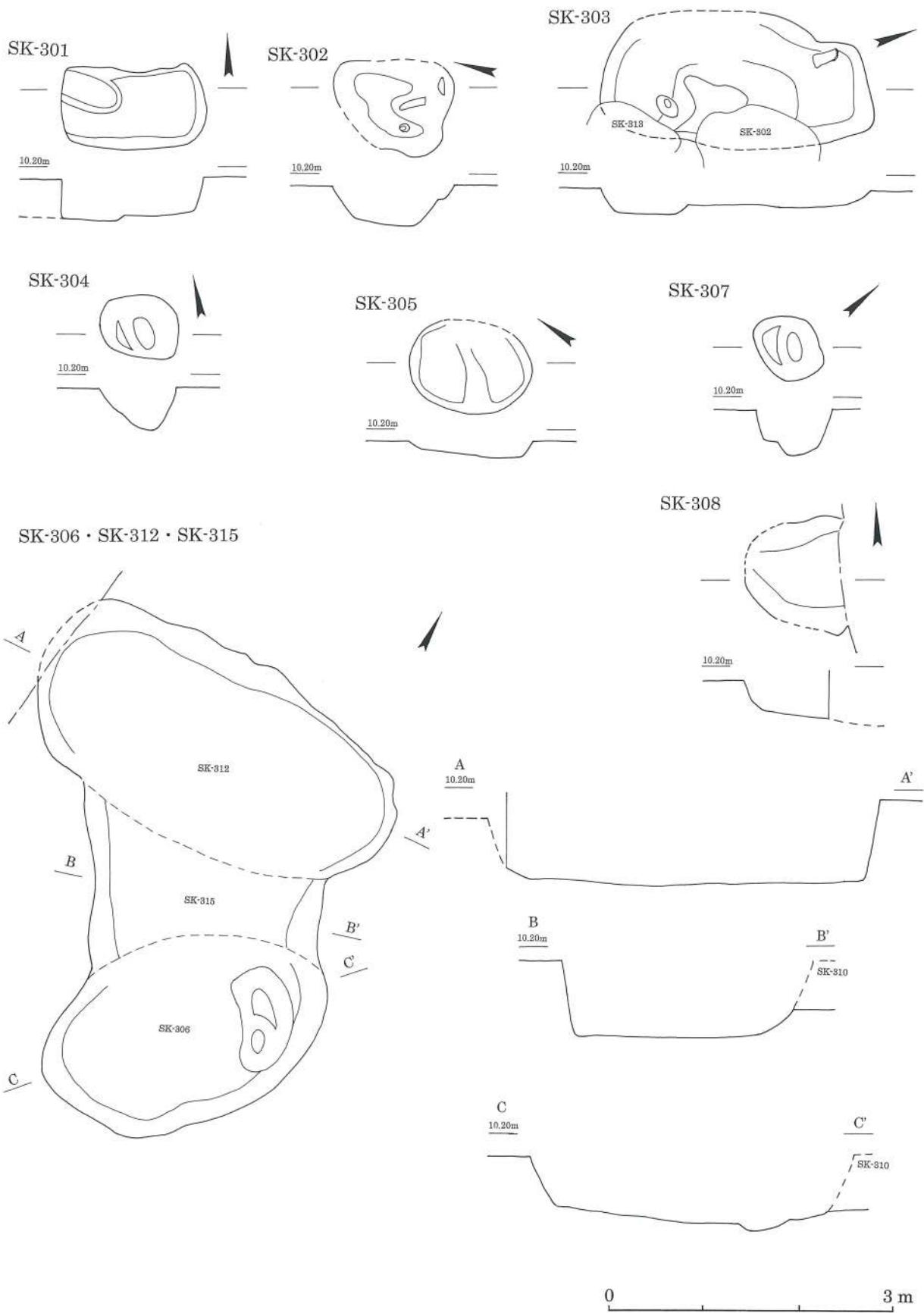


Fig.33 坊所城跡3区 遺構実測図(2)

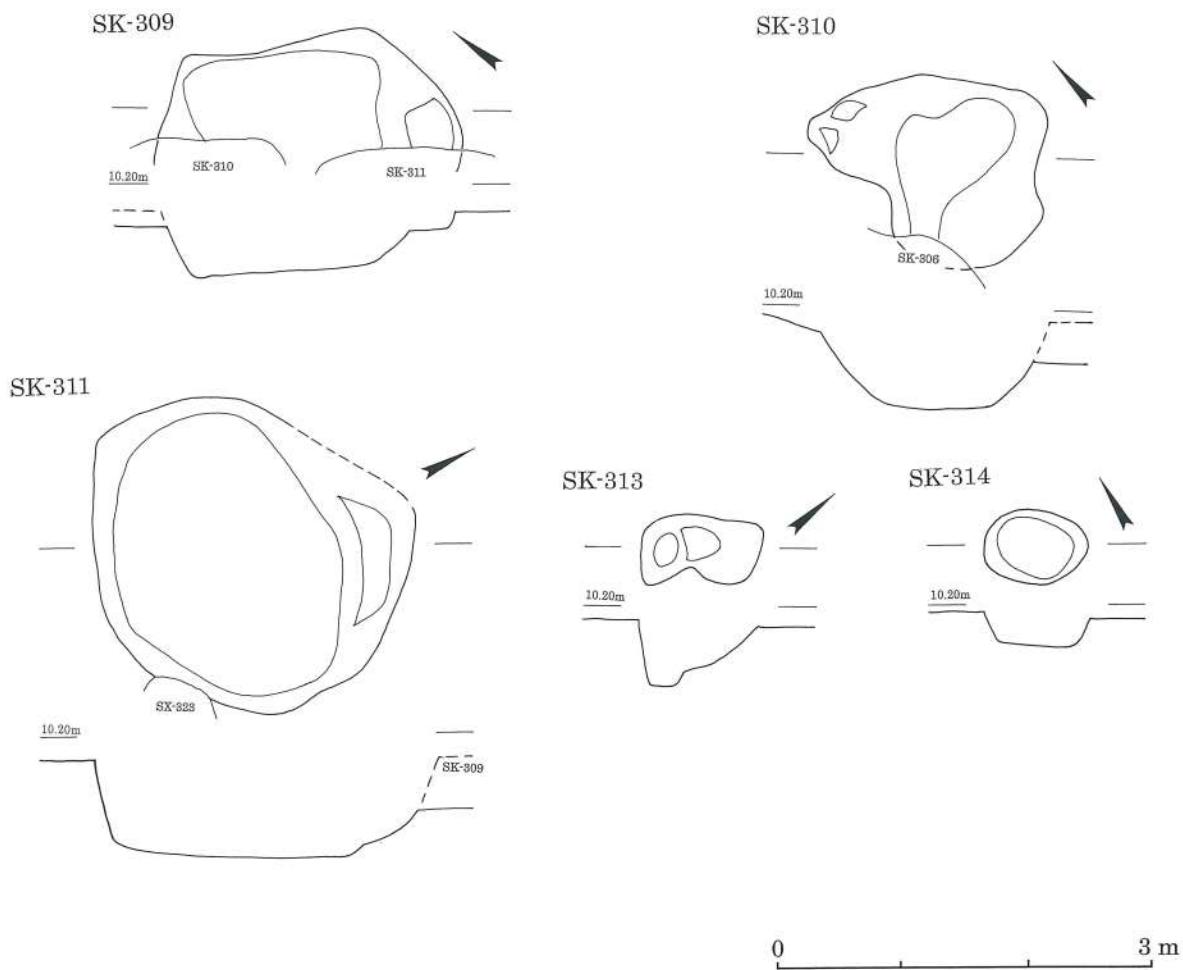


Fig.34 坊所城跡3区 遺構実測図(3)

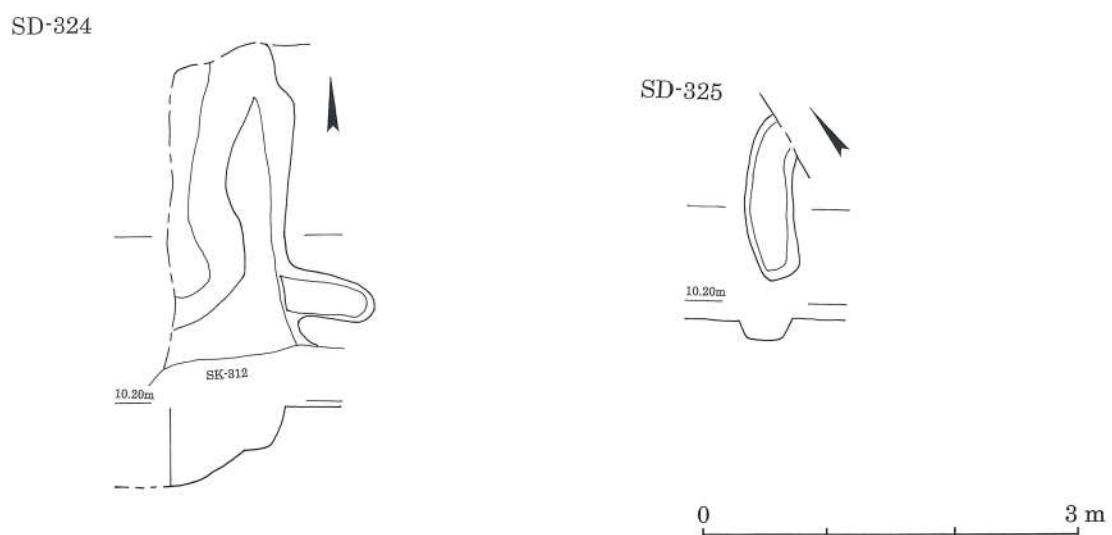


Fig.35 坊所城跡3区 遺構実測図(4)

遺物 (Fig.36, 37・PL.28~30)

各遺構から幕末期以降の肥前系陶磁器類をはじめとして、石製品、土製品、ガラス製品などの遺物が出土した。

SK-301出土遺物

1は磁器端反碗、見込に蛇の目釉剥ぎ。5は磁器皿、18世紀後半代の鍋島藩窯製品。8は磁器皿、蛇の目凹型高台。13は唐津系陶器鉢、白土化粧。17は瓦器鉢。20は瓦器甕。

SK-311出土遺物

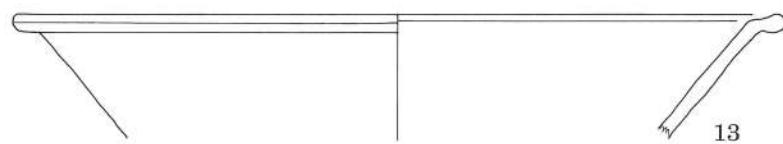
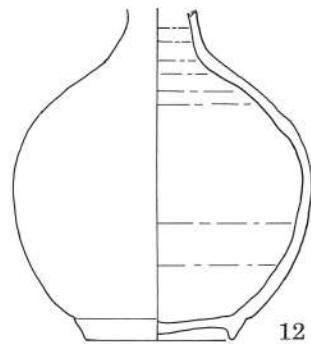
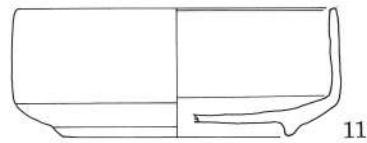
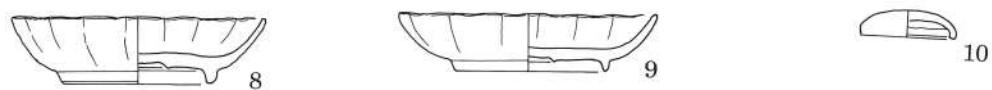
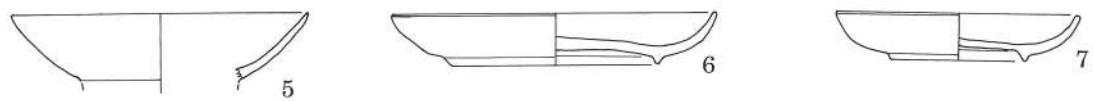
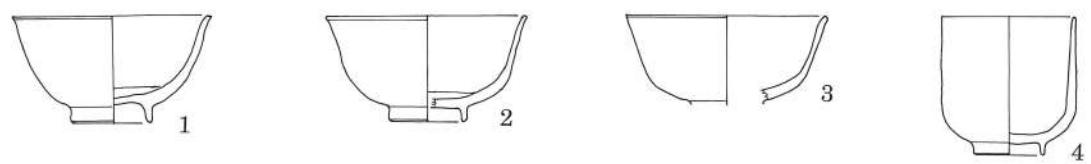
10は磁器、小型の蓋物蓋。「肥前野中鳥犀圓」の文字が見える。

SK-312出土遺物

2は磁器端反碗、見込に蛇の目釉剥ぎ。6・7・9は磁器皿、9は蛇の目凹型高台。・14は陶器擂鉢。16は素焼きの焰焰。

SX-312出土遺物

3は磁器端反碗。4は磁器筒茶碗。11は磁器蓋物。12は磁器花器。15は素焼きの皿。18は七輪。19・21は瓦器火鉢。22はガラス玉、1.5cmのほぼ球形、淡青色を呈す。23は人形の一部と思われる土製品、高さ5cm。24は石臼。



0 20cm

Fig.36 坊所城跡3区 遺物実測図(1)

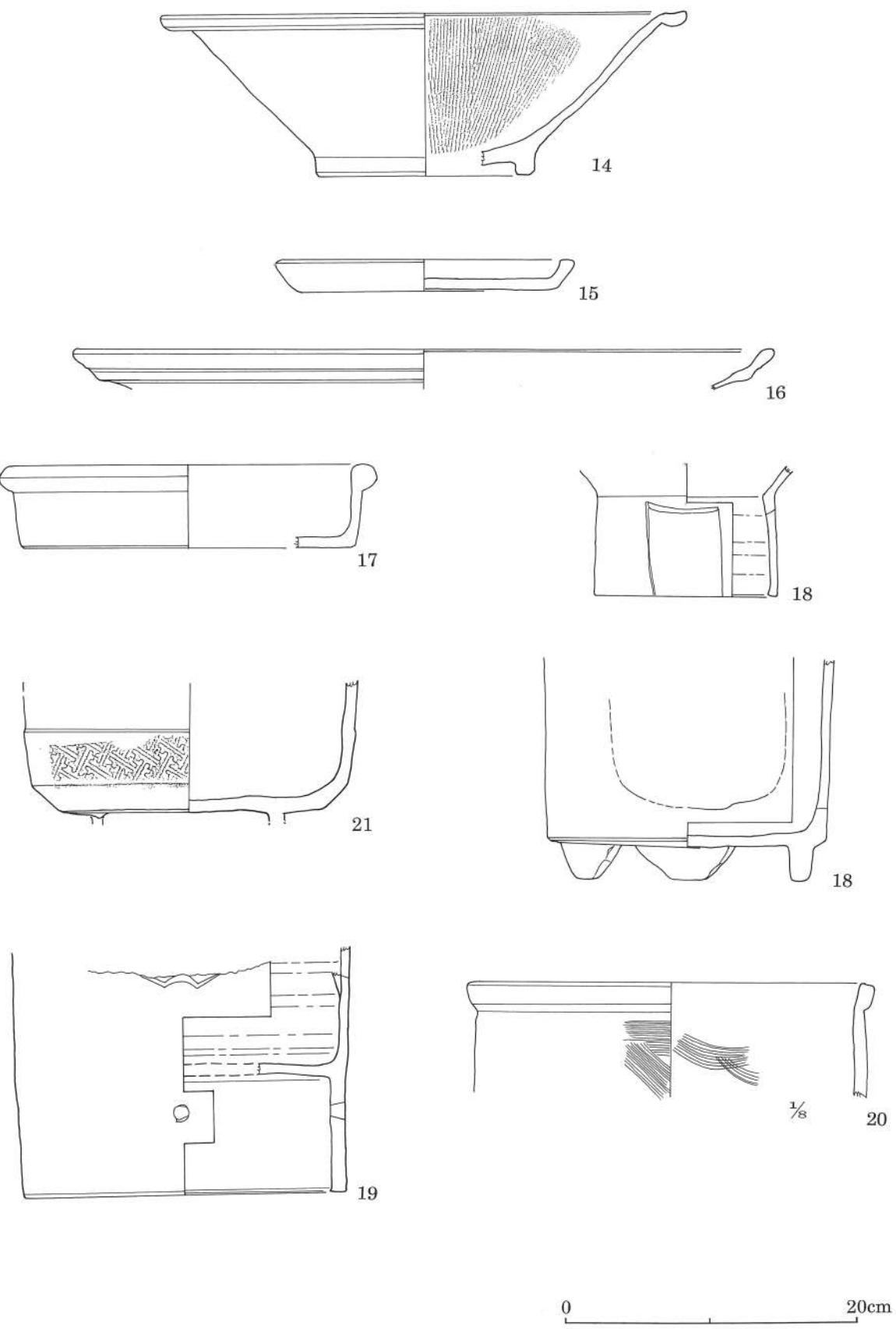


Fig.37 坊所城跡3区 遺物実測図(2)



1 坊所城跡 3 区 調査区遠景 一北東より一



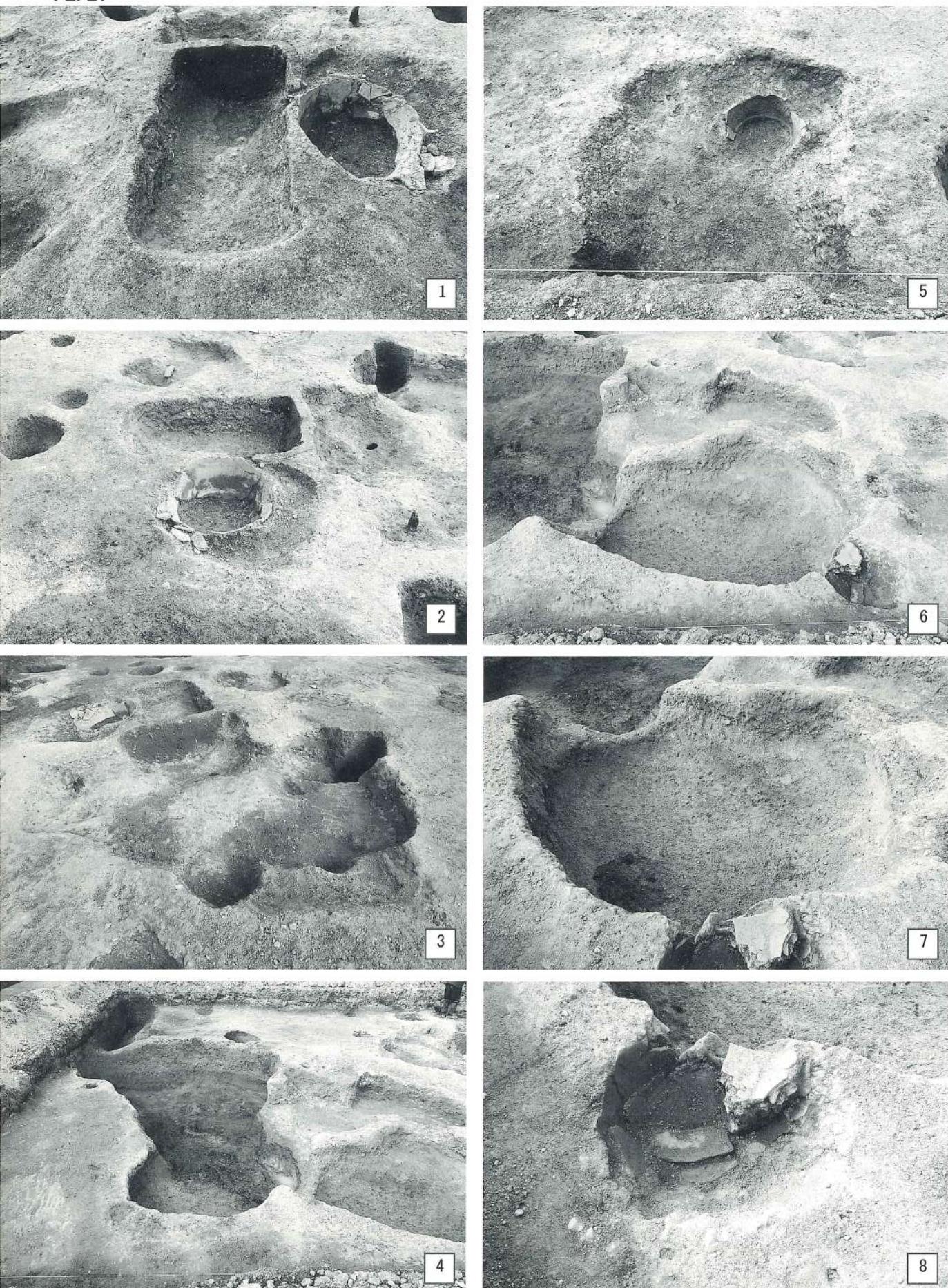
2 坊所城跡 3 区 遺構検出状況 一西より一



1 坊所城跡 3 区 調査区全景 一西より一

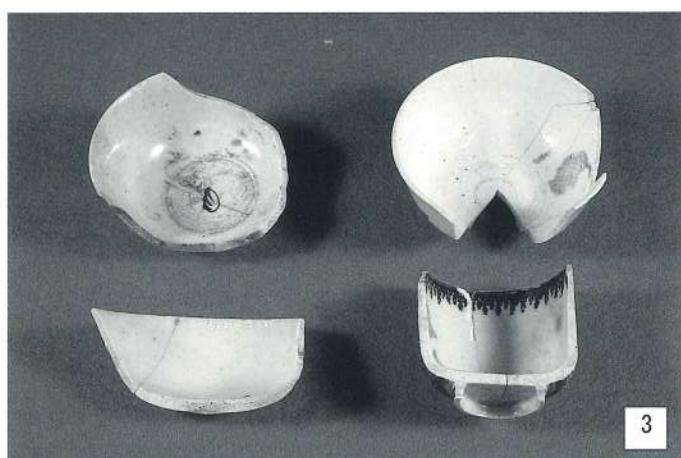
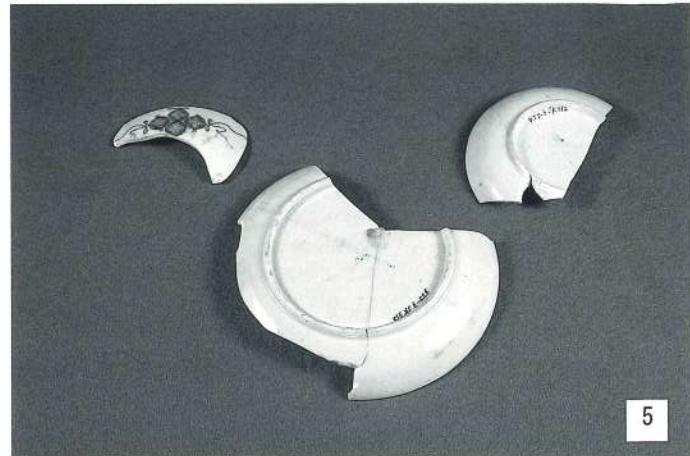


2 坊所城跡 3 区 調査終了後 一北東より一



1 SK-301
 2 SK-301·SX321
 3 SK-302·SK-303·SK-313
 4 SK-306·SK-312·SK-315

5 SK-308·SX322
 6 SK-309·SK-310·SK-311·SX323
 7 SK-311
 8 SX-323



1 SD-324
2 1·2·3·4
3 同上
4 5·6·7

5 5·6·7
6 8·9
7 同上
8 10



1



5



2



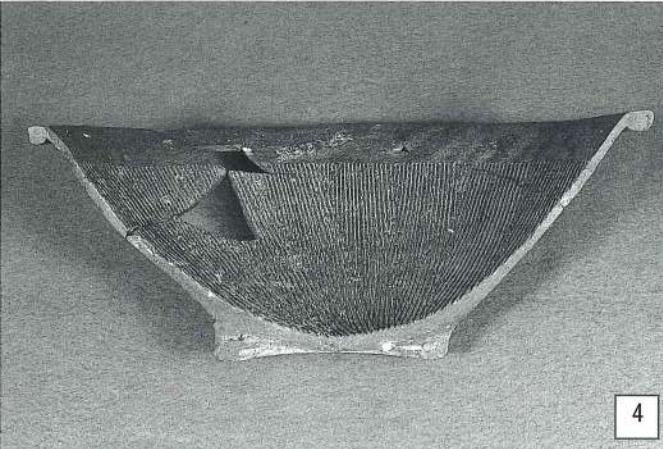
6



3



7



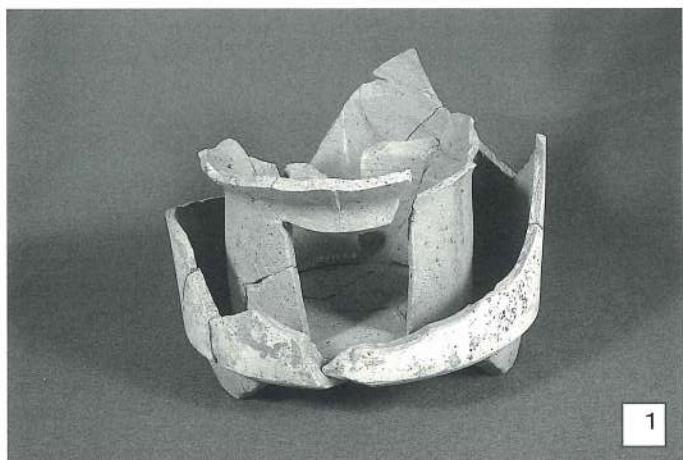
4



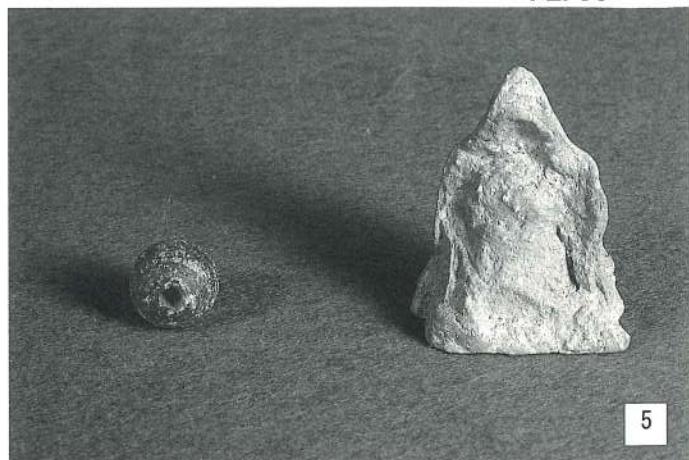
8

1 11
2 12
3 13
4 14

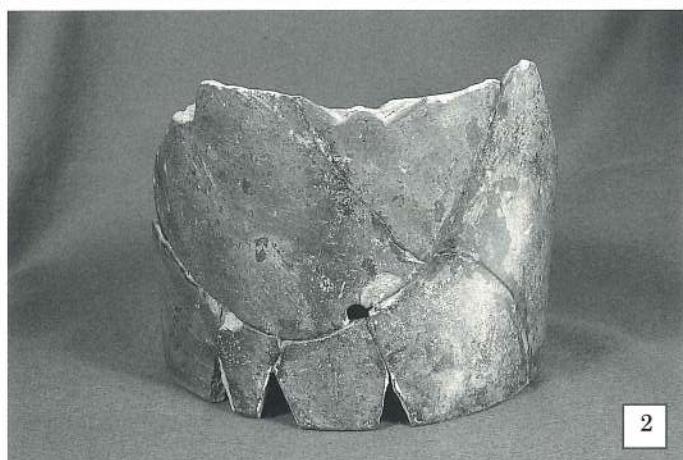
5 14
6 15
7 16
8 17



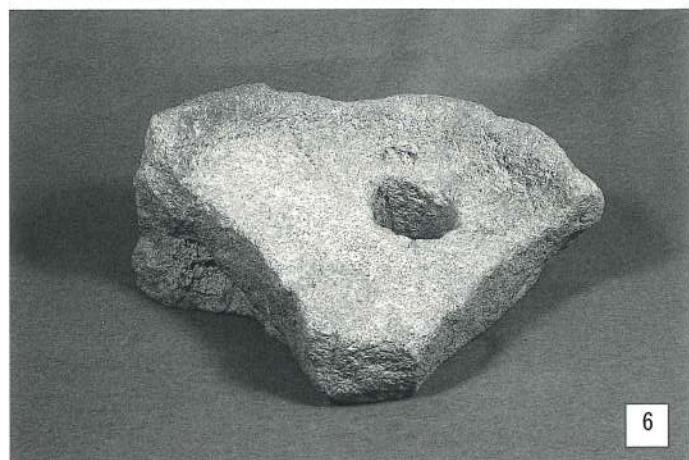
1



5



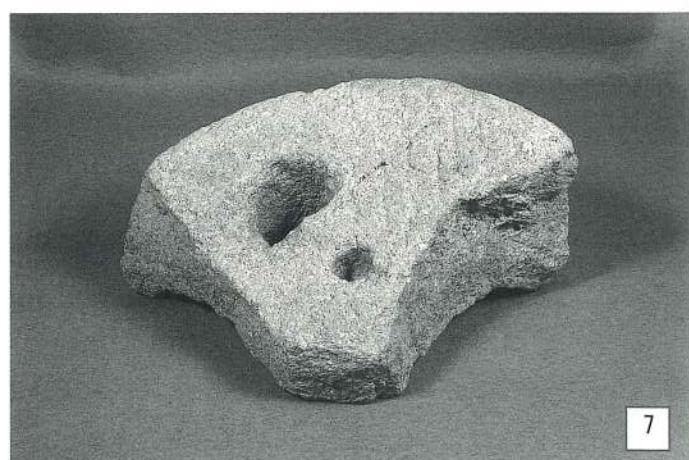
2



6



3



7



4

1 18
2 19
3 20
4 21

5 22·23
6 24
7 同上

報 告 書 抄 錄

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさVI						
書名	上峰町内遺跡確認調査VI						
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 ——平成25年度——						
卷次							
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書						
シリーズ番号	第39集						
編著者名	原田 大介						
編集機関	上峰町教育委員会						
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888						
発行年月日	2015年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積m ²	調査原因
ちょうないいせき 町内遺跡	市町村 佐賀県三養基郡 かみみねまち 上峰町一円	41345 遺跡番号	。' "	。' "	2013. 4. ～ 2014. 3		町内における各種開発行為
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
町内遺跡	集落跡 城館跡	奈良・平安 時代 中世 近世 近代	溝跡・土壤等	舶載青磁・中世土器・近世陶磁器・近代陶磁器・石製品			

